

鳥取駅周辺の再生に向けた取り組みについて

鳥取市では、中心市街地の中心拠点であり、麒麟のまち圏域の交通や交流の要衝地である鳥取駅周辺の再生に向けた取組を推進しており、今年度は、鳥取駅周辺の整備方針や整備イメージをまとめた「鳥取駅周辺再生基本計画」を策定することとしています。

今後、この取組を「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョン」に位置付け、構成市町で連携しながら、持続可能な利便性の高い地域公共交通を確保維持するほか、圏域の豊かな自然や多様な食、温泉、文化等の観光情報を発信する体制の強化などを図ることにより、麒麟のまち圏域の将来像の実現を目指していきます。

1. 鳥取駅周辺の課題等について

1. 麒麟のまち圏域全域の主な課題

- ◆高齢化の急速な進展による交通弱者の増加
- ◆運転手不足による地域公共交通サービスの衰退
- ◆高速交通ネットワークを活かした安全・安心・快適な暮らしの確保

2. 鳥取駅周辺の主な課題

- ◆圏域の拠点性を活かした交通アクセス・ターミナル機能の強化
- ◆賑わいを創出させるための機能整備
- ◆観光文化等の情報提供・発信機能の充実
- ◆誰もが安全・安心に移動できる円滑かつ利便性の高い利用者動線の形成
- ◆自動運転技術の進展やMaaSの普及に対応した次世代モビリティの拠点整備
- ◆災害時の一時避難場所や帰宅困難者の受入れ空間、災害支援の活動拠点整備

2. 鳥取駅周辺の再整備の方向性について

1. 基本理念

オアシス

人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取OACIS』の創造

2. 再整備の方向性

麒麟のまち圏域の交通・交流の中心拠点として、誰もが安心、快適に利用できる総合交通ターミナルを整備し、魅力的で居心地が良く歩きたくなる空間づくりを目指します。

3. 再整備の重要な視点

(1) 災害に強く安心して安全なまちづくりの拠点整備

災害時の一時避難場所や帰宅困難者の受入空間を確保しながら、周辺地域へ繋がる交通ネットワーク拠点として防災機能を充実させる。

(2) デジタル未来都市「スマートシティ鳥取」実現に向け先進的技術を導入

AI や ICT 技術を活用した自動運転等の次世代モビリティの導入など、先進的技術を有効活用し、交通弱者の移動手段や持続可能な公共交通を確保していくなど、時代や社会環境に合わせたスマートシティを実現する。

(3) 住民や民間との共創による持続可能なまちづくり

賑わい拠点の整備にあたっては、民間の知恵やノウハウを最大限活用するため、民間主導による取組を推進する。また、鳥取駅周辺再生の取り組みを通じて、将来のまちづくりの担い手となる人材を育成するとともに、住民のシビックプライドを醸成する。

4. 整備すべき施設・機能の考え方

(1) 交通ターミナル機能の再編等によるモーダルコネクットの強化

老朽化する**バスターミナル施設を含む交通ターミナル機能の再編**により、道路ネットワークと多様な交通モードを連携し、**住民や来街者等が利用しやすく、災害にも強い交通拠点を整備**することで、安心して快適な交通ネットワークの形成を目指していく。

(2) 魅力的で訪れたいくなる賑わい拠点づくり

公共公益施設の再配置と併せて、**民間の企画力や資金力を活用して、麒麟のまち圏域の新たな顔となる複合施設を整備**するなど、住民や来街者にとって魅力的な賑わい拠点を目指していく。

(3) 居心地が良く歩きたくなる空間づくり

魅力的でバリアフリーな歩行者空間を整備し、駅周辺からまちなかへの回遊性を高め、中心市街地全体の賑わい創出を目指していく。

(4) 人々の出会いや多くの交流が生まれる滞留空間づくり

住民や来街者が自然に集い、**特に若者や子育て世代にとって憩いの場となる滞留空間を整備**するなど、**他都市とは一線を画した上質で居心地の良い空間形成**を目指していく。

(5) 情報発信機能の集積と、きめ細やかな情報案内サービス

国際対応を含めた総合型の情報発信拠点を整備するとともに、駅周辺にデジタルサイネージや案内サインなどを適切に配置し、多言語表示やピクトグラムを活用しながら、**平常時・災害発生時に国内外の来街者にもわかりやすく情報案内できる環境**を目指していく。

鳥取市の拠点性

- 因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏（通称：麒麟のまち圏域）の中心市
- 麒麟のまち圏域の交通の要衝地であり、経済・観光・交流・防災の拠点

